

博物館資料保存論

自由

開講年次：3年次後期

科目区分：講義

単位：2単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：資料を適切な環境で保存・管理することは博物館の重要な使命である。資料保存の諸条件の中でも、日本の気候の特徴である夏季の高温多湿によるカビ対策は、多くの博物館の課題である。授業ではIPM（総合的有害生物管理）をはじめ博物館における資料の保存環境について実例を通して学習する。

■**到達目標**：博物館における資料保存及びその保存・展示環境及び収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得することを通じて、資料の保存に関する基礎的能力を養う。

- ①博物館における資料保存や展示環境の現状を理解する。
- ②資料を良好に保存するための基礎的な知識を習得する。
- ③文化財の保存と活用を通して自然環境やその保護について考察する。

■**担当教員**：

福岡 孝

■**授業計画・内容**：

- 第1回 オリエンテーション 博物館における資料保存の意義
- 第2回 I) 資料の保全 1. 文化財保護の歴史
- 第3回 2. 資料の災害対策
- 第4回 II) 博物館資料の保存環境 1. 博物館の施設・設備と保存環境
- 第5回 2. 資料保存の諸条件とその影響
- 第6回 3. 資料の状態調査と修理・修復
- 第7回 4. カビ対策とIPM
- 第8回 5. 伝統的な保存方法
- 第9回 6. 事例研究：樹木・木材の保存について
- 第10回 III) 環境保護と博物館の役割 1. 文化財の保存と返還問題
- 第11回 2. 自然環境の保護・保全
- 第12回 3. 資料の保存と管理制度
- 第13回 市内博物館施設の資料保存の実例I
- 第14回 市内博物館施設の資料保存の実例II
- 第15回 まとめ

■**教科書**：原則として使用しない。必要なプリントは講義の時に配布する。配布したプリントはファイルに綴じるなどして、紛失しないこと。

■**参考文献**：「博物館資料保存論」 石崎武志編著 講談社・2012年発行。
「博物館資料保存論」 本田光子・森田 稔編著 放送大学教育振興会・2012年発行。

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
出席	○	○	○	3分の2以上の出席	30
レポート	○	○	○	内容、締め切り期日	20
小テスト(3回)	◎	◎	○	60点	50

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：博物館資料論 博物館展示論 博物館情報・メディア論

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：博物館資料保存に関わる内容は、我々が日常生活で体験する現象の中に潜んでいます。それらの現象を科学的に解明し対応することが、博物館の資料保存に結びつきます。新聞やTVなど、マスコミに取り上げられる関連内容にも注目し、問題意識を持って授業に臨んでほしいと思います。